
若年性認知症の現状と課題： 全国調査から

Epidemiological study on early onset dementia in Japan and its points at issue

筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻精神病態医学分野

池嶋千秋* 朝田 隆

1. はじめに

若年性認知症とは、60歳もしくは65歳未満で発病する認知症をいい、いずれも特定の疾患を指す名称ではない。近年このような病態が注目される理由は、老年期の認知症と比較して、若年性認知症の当事者と家族では、経済、医療・ケア、家族の絆などの極めて深刻な課題が、ほぼ手付かずの状態だと注意が喚起されるようになったと考えられる。そこで、若年性認知症患者について、患者数、基礎疾患、社会的サービスの利用状況について調査を行った。

2. 対象と方法

茨城県、群馬県、富山県、愛媛県、熊本県の全域と、徳島県徳島市、横浜市港北区を調査実施地域とした。各地域において、認知症の医療や保健・福祉などに係る可能性がある全ての施設・機関を対象とし、郵送法による2段階のアンケート調査を行った。1次調査では、調査対象の期間内に何らかの接触があった該当個人の有無を尋ね、1次調査で該当者有りと回答した機関に対して、2次調査を施行し詳細な情報を得た。

3. 結果

5県2都市併せて13,876施設にアンケートを送付し、11,633施設から回答を得た（回収率83.8%）。

対象外の年齢および疾患、重複報告例を除外し2,133名の患者を同定した。推定された18-64歳人口における10万人対の患者数は、47.6人（95% CI：45.5-49.7）であり、男性57.8人、女性36.7人と、男性に多かった（表1）。基礎疾患は脳血管性（VaD）の認知症が最多、アルツハイマー病（AD）、そして頭部外傷後遺症と続いた（図1）。VaDの有病率は、男性は女性の2倍以上であるのに対し、ADについては逆に女性の有病率が高かった（図2）。

4. 考察

本研究における認知症の基礎疾患はVaDが最多であり、この結果はADが最多疾患である近年の高齢者を対象とした認知症研究と相違している。ADの最も重要な危険因子は加齢であり、また女性であることも危険因子の一つと考えられている。日本では特に女性の平均寿命が延長しており、このことが高齢者におけるAD増加の一因となっていると考えられる。一方で、VaDを引き起こす脳卒中の有病率・発症率は高齢者では減少傾向にあるものの、若年者では病因の違いもあり、大きな変化は認められていない。つまり若年性認知症の背景疾患としてVaDが著しく多いことは、脳卒中男性の高い有病率に起因していると考えられた。

* Chiaki Ikejima: Department of Psychiatry, Institute of Clinical Medicine, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba.

現) 筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻精神病態医学分野／非常勤研究員
八潮中央総合病院
Yashio Central General Hospital

表 1 若年性認知症有病率

区分	全国有病率 推定値	分散	標準偏差	95%信頼 下限	95%信頼 上限
全疾患（全体）	47.571	1.125	1.061	45.492	49.649
全疾患（男性）	57.844	2.722	1.650	54.610	61.078
全疾患（女性）	36.731	1.737	1.318	34.148	39.315
AD（全体）	11.575	0.268	0.518	10.560	12.590
AD（男性）	9.722	0.445	0.667	8.414	11.030
AD（女性）	13.353	0.624	0.790	11.805	14.902
VaD（全体）	19.091	0.453	0.673	17.772	20.411
VaD（男性）	25.972	1.226	1.107	23.802	28.142
VaD（女性）	11.896	0.564	0.751	10.424	13.368
Alcohol	1.557	0.039	0.197	1.170	1.944
FTLD	1.703	0.041	0.204	1.304	2.102
DLB/PD	1.318	0.041	0.204	0.919	1.717
Head trauma	4.007	0.101	0.318	3.383	4.631

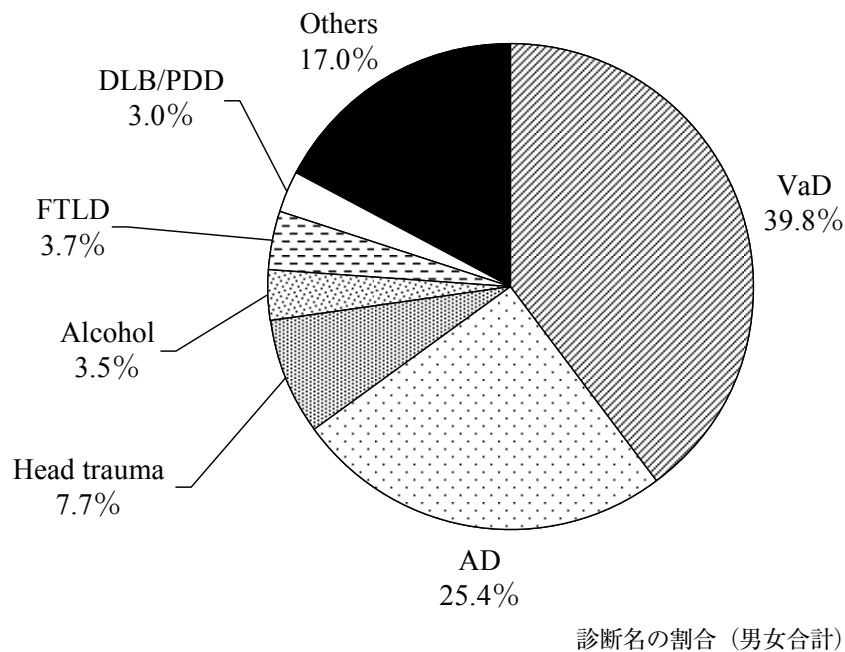


図 1 基礎疾患の内訳（全体）

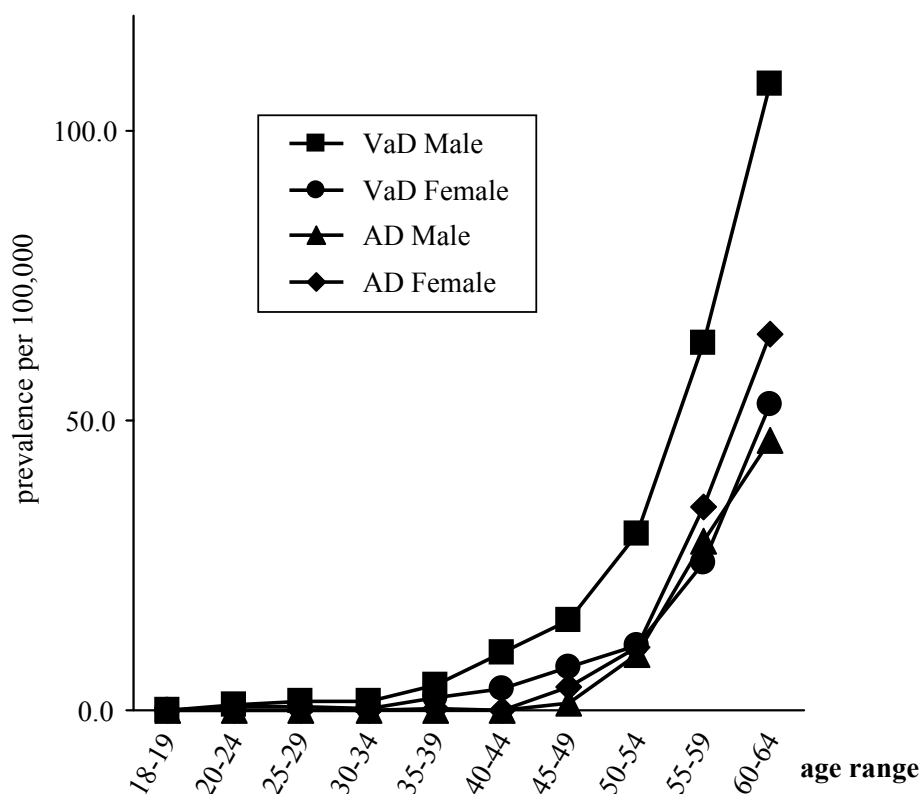


図2 男女別のADとVaDの有病率

5. おわりに

若年性認知症の基礎疾患は、高齢者や欧米における調査結果と異なり VaD が最多であった。VaD 患者の場合、脳血管障害によって惹起された身体機能障害に直面し、まずはその回復に集中する。その結果、認知障害は副次的なもののみなされてあまり注目されなかった可能性がある。しかし今回の調査結果は、こうした方々において認知障害の改善に努めることの重要性を再認識させる。これに対し、変性性の認知症の特徴は漸次進行性という点にあり、就労や社会・家庭生活を大きく妨げる。これらの人々の就労継続支援やリハビリテーションにおいて、従来からの脳卒中モデルを適応することは困難である。よって、こうした領域における新たな知見の蓄積や技術開発は喫緊の課題である。併せて速やかな患者・家族への経済支援、特化した福祉サービス制度の創設が切望される。

文 献

- 1) 朝田隆. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)総合研究報告書「若年性認知症の実態と対応の基礎基盤に関する研究」, 2009
- 2) Baldwin RC. Acquired cognitive impairment in the presenium. *Psychiatry Bulletin*, 18: 463-465, 1994.

- 3) Harvey RJ, Skelton-Robinson M, Rossor MN. The prevalence and causes of dementia in people under the age of 65 years. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 74: 1206-1209, 2003
- 4) 一ノ渡尚道. 厚生省科学研究費補助金. 若年痴呆の実態に関する研究. 平成 8 年度報告書. 1997
- 5) Ikejima C, Yasuno F, Mizukami K. Prevalence and causes of early-onset dementia in Japan: A population-based study, *Stroke*. 2009; 40: 2709-2714.
- 6) Mendez MF, Cummings JL. Dementia: significance, definition, and epidemiology In *Dementia 3rd* pp1-12, Butterworth Heinemann, Philadelphia, 2003.
- 7) Kokmen E, Beard CM, Offord KP, Kurland LT. Prevalence of medically diagnosed dementia in a defined United States population: Rochester, Minnesota, January 1 1975. *Neurology* 39: 773-776, 1989
- 8) McMurtray A, Clark DG, Christine D: Early-onset dementia: Frequency and causes compared to late-onset dementia. *Dement Geriatr Cogn Disord* 21: 59-64, 2006

- 9) Mendez MF, Cummings JL: Dementia: Significance, definition, and epidemiology in *Dementia 3rd*, Butterworth Heinemann, Philadelphia, pp1-12, 2003
- 10) Mercy L, Hodges JR, Dawson K, et al: Incidence of early-onset dementias in Cambridgeshire, United Kingdom. *Neurology* 71: 1469-1499, 2008
- 11) Mölsa PK, Mattila RJ, Rinne UK: Epidemiology of dementia in a Finnish population. *Acta Neurol Scand* 65: 541-552, 1982
- 12) Shinagawa S, Ikeda M, Toyota Y, et al. Frequency and clinical characteristics of early-onset dementia in consecutive patients in a memory clinic. *Dement Geriatr Cogn Disord*. 24: 42-47, 2007
- 13) Yokota O, Sasaki K, Fujisawa Y, et al. Frequency of early and late-onset dementias in a Japanese memory disorders clinic. *Eur J Neurol* 12: 782-790, 2005

この論文は、平成 22 年 7 月 31 日（土）第 24 回
老年期認知症研究会で発表された内容です。